



大堀哲先生が瑞宝小綬章を受章

平成28年秋の叙勲が11月3日付けで発令され、長崎会津会会長で当会顧問の大堀哲先生が瑞宝小綬章を受章されました。心よりお祝い申し上げます。

瑞宝章は、「国及び地方公共団体の公務又は公共的な業務に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた者を表彰する場合に授与する」とされています。今回、長崎県内から瑞宝小綬章を受章されたのは12名で、大堀哲先生は元国立科学博物館教育部長という肩書で受章されました。

国立科学博物館組織規則によると、同博物館には8つの部が置かれ、教育部の所掌事務として、学生、生徒及び児童の自然科学及びその応用に関する知識・技術の学習に関して教育の事業や調査研究を行ったり、博物館その他これに類する施設の職員、教育職員及び青少年教育指導者その他の関係者に対し、自然科学及びその応用に関する知識及び技術の研修を行うこと、などが規定されています。

大堀先生は社会教育関係の専門家としての経験を買われて、平成17年に長崎歴史文化博物館が開館される際、初代館長就任を要請され、現在まで10年以上にわたって館長に就任されています。

在職中、博物館内で大堀館長自ら様々な講演を行って多くのファンを獲得され、大堀館長が講演されるとなると、いつも会場はたくさんの聴衆でいっぱいになっています。今後もお体を大事にされ、力の続く限り館長として、長崎の歴史と文化の発展に尽くしていただきたいと思います。



大堀哲先生の略歴

昭和12年 福島県会津坂下町に生まれる。

昭和30年 福島県立会津高校卒業

昭和34年 東北大学教育学部卒業

” 文部省に入省。社会教育局に勤務。

国立科学博物館教育部長

東京大学大学院教育学研究科助教授

静岡大学情報学部教授

私立常盤大学副学長、学長

平成17年7月～現在 長崎歴史文化博物館館長

日下可明子女史の墓地清掃

白虎隊の会の年末の恒例行事である日下義雄の妻、可明子夫人のお墓の清掃を12月17日会員4名で行いました。日程が合わずいつもより寂しい参加人数となりましたが、毎年続けていきたいと思えます。



可明子夫人逝去については、翌日の鎮西日報で報道されています。可明子夫人の人となりで紹介されており、その早すぎた死がとても惜しまれます。以下に全文を掲載します。

●鎮西日報 明治19年12月12日記事

「本県知事日下義雄君の令閨は昨日はせられたり。同夫人は名を可明といひ資性俊敏にして温良の美德を兼備へ、夙に本邦婦人の旧習を脱し家政を処理すると同時に交際の道を開き自他相利するを以て志とせられしかは東京上遊の交際間には日下夫人の名声せきせきたり。殊に近時の美挙たる貴婦人の設立に係る慈善会を始めその他の諸会にありてそうそうの聞えあり。当地に来らるるに及び内外の交際社会に立ちて専ら彼此の交情を親密ならしむるよう力められたり。居留外人の間に就ても推重他に殊なるものあり。

その人を見遇するに貴賤を以て意に介せず皆な勲懇と悉る。故に一たび音容に接するものは敬愛せざるなし。本月7日にわかには脳充血を患ひ一時は危篤なりしもその後追々快復に向いたりしが昨11日午前7時を以てついに遠逝せられたるぞ哀しけれ。」



明治十九年二十八歳のとき撮影(山内愚徳氏所蔵)

白虎隊の会長崎支部新年会を開催

白虎隊の会長崎支部の新年会を私の家で行いました。長崎市中心部から多少離れてますが、会員の多くに参加していただきました。私は会津若松に生まれ、3歳のときに仙台に引越しましたが高校まで夏・冬・春休みは会津の母方の実家に家族で入りびたりでした。母方の実家は会津で眼科を開業しており、ご先祖は前田慶次郎と言われております。

私の会津の味は母の味で、他の家の味を味わったことが無いので、今回の新年会も母親の味で皆様に召し上がっていただきました。大晦日には「ざくざく」と言う「するめダシ」の根菜系のお汁が出て、塩が吹き出てる塩引きで済ませました(もう50年以上も前の話です)。明けて新年はお雑煮と、納豆もち・大根おろし餅・そして子供の頃は大好物だったあんこ餅(所謂おしろこ)と、青大豆の浸し豆に数の子を入れた物、そして「こづゆ」は(昔は煮肴と言っていた記憶があります)貝柱のダシで何種類もの具材が入っています。

母親の味を思い出しながら試行錯誤で具材は会津から取り寄せ「こづゆ」を作ってみました。

また「置き囲炉裏」があるので、鮎と岩魚の塩焼きを作ってみました。

小さめの囲炉裏ですが、結構よい雰囲気を出しています。

酒はもちろん会津の地酒。「風が吹く」「国権」「会津誉れ」「会津娘」など。今の会津のお酒は美味しくて、また「会津誉れ」のお嬢さんが日曜朝の「サンデーモーニング」で、めがねが似合ってる唐橋アナの実家ということで、大変盛り上がりました。工藤新一支部長も病気で一時休んでおりましたが、元気に出席され、年末に「長崎会津会」主催で講演会を開こうと提案されました。



写真は「こづゆ」と「鮎・岩魚の塩焼き」と「練の山椒漬け」と会津の

懐かしい郷土料理です。また、来年はみんなで会津に行ってみようとも話しておりました。

最後に酔っ払った会員の集合写真も出していますが、特に酔っ払ったのが写っているので、少しピンボケになってしまっています。(高久和也)



斗南藩ゆかりの地を訪問

吉武 廣司・裕子



ホテルから眺めた釜臥山とむつ市街



斗南藩墳墓の地（青シャツが中川様）

平成28年5月の連休に、下北半島斗南藩 ゆかりの地を巡ってきました。交通の便も含めて遠かったというのが第一の感想です。朝早く長崎を出たのですが、ホテルに着いたのが夜の9時を回っていました。

そのホテルは斗南会津会の関係者のようで、大浴場に行く途中には14代当主松平保久氏や会津祭りなど大きなパネルがたくさんありましたし、ホテルの正面には容保桜がありました。部屋からは上陸の地を含めむつ市街地が一望でき、会津磐梯山に見立てた釜臥山もきれいに見えました。翌日、ボランティアガイドの中川様の案内で斗南藩ゆかりの地を全て巡ることが出来ました。

まずは開拓拠点として区画された斗南が丘。そこで会津ナンバーの車を見つけ、一緒に斗南藩墳墓の地を訪れ、線香を手向けて、当時を偲びました。

斗南藩は大湊を『奥羽の長崎』として一大貿易港にしようと計画を建て、海上交通で、海の遭難が多かった場所に尻屋崎灯台の建立を工部省へ建言しました。美しい灯台でした。

その後、市内に戻って円通寺、招魂碑、徳玄寺に行きました。この地で藩の行方、藩士の生活、いろんなことを計画たてたのだらうと思います。斗南が丘の計画図等も残っているとのことでした。

その後、斗南藩士上陸の地に向かいました。この地に上陸したとき、釜臥山が磐梯山に見えたのでしょうか。石碑は会津城の石垣と同じ慶山石を使い、会津の方を向いて建てられていました。しかし、その入り口など周辺の整備が今ひとつ不十分で、公園みたいになっても良いのにと思いました。

その後、柴五郎一家居住跡と彼の落書きのある呑香稲荷神社に行きました。祠は鍵がかかっていた落書きは見る事が出来ませんでした。今でも辺鄙な山の中でした。近くには運動公園がありました。

たくさんの藩士が一度にこの地に住むようになり、元々の住人達はどう思ったのだろうか、中川様に尋ねたところ、いろんな産業ができて、良かったのではという意見でした。教育の面でも、日新館も出来、廃校になっても、学校が出来ると会津藩士が校長や教員になったそうです。校長先生や町長さんなど会津関係者がほとんどだそうで、教育は大事なのだ、会津藩士は凄いなと感心しました。

最後に恐山に行ったのですが、いろんな話を聞き、教えてもらって、イメージが随分変わりました。極寒の下北を訪れたわけではありませんが、その地を巡って、その地に立ち、いろんな思いを巡らせる、何か伝わってきたような気がしました。



斗南藩上陸の地の石碑と釜臥山



斗南が丘



上陸の地の案内板の前で